



国際 HEIFE シンポジウム

文部省国際共同研究特別事業費によって行われた「黒河流域における地空相互作用に関する日中共同研究」HEIFE (HEihe river Field Experiment) の最終年にあたり、乾燥地における地表面と大気との相互作用に関連した気象学、水文学的な観測研究の成果および砂漠地における水利用、砂漠化防止のための方策など応用面を含むこの事業の成果を広く世界に発表し、同時に関連研究者にも討論に参加してもらうために表記の国際シンポジウムが開催されます。

主催 京都大学防災研究所, 中国科学院蘭州高原大気物理研究所

会期 1993年11月8日～11日

予定されているセッション

1. HEIFE の概要
2. 大規模過程
3. 水文学, 水循環, 降水
4. 境界層過程
5. 放射, エアロゾル

6. 生物気象, 水利用

7. 討論, 将来計画

場所 京大会館 (京都市左京区吉田河原町)

使用言語 英語

定員 120名程度

参加料 無料

参加/発表申込締切

1993年6月30日

連絡先 サーキュラー No.2 が出来ています。下記に御請求下さい。

〒611 京都市五ヶ庄 京都大学防災研究所
光田 寧

TEL 0774-32-3111

FAX 0774-31-0026

その他 本シンポジウムのプロシーディングは後日刊行されます。

編集後記: 暖冬にもかかわらず猛威をふるったインフルエンザがようやく下火になったと思ったら、今度は、くしゃみ・鼻水・鼻づまり、目はウルウルで睡眠不足という人が回りに目立ち始めました。4月号が皆さんの手元に届く頃にはこれらの症状も嘘のように消失させているでしょうが、来年になれば、又、同じ事の繰り返し。最近では、天気予報と共にスギ花粉の予報まで新聞・テレビに出る始末。

先日、このスギ花粉症の防御策をテレビで放送していました。番組の中で某医大の先生が言うには、「マスクの中に濡らしたガーゼをいれると効果倍増。洗眼・うがい・手洗い励行。但し、鼻の粘膜は非常にデリケートなので、湯水で洗うのは避ける」。花粉症の諸症状は花粉を体外へ排出するという身体の防御反応に過ぎないのですが、たまたまそれが過剰に出たものであって、症状だけを薬や注射で無理に抑えるのは考えものとのこと。根本的な花粉症対策はマスク・眼鏡などで花粉

を体内に入れないか、又は、減感作療法という長期間に渡る体質改善しかないようです。これが面倒な人は薬や注射に頼って、2月半ばから4月半ばまでの2ヶ月間、その場をしのぐほかありません。この場合花粉が大量に飛散し出す1週間前から治療をすると効き目がアップするそうで、より精度の高い気象の予測とスギの開花予想が必要になってきます。

ところで、異常気象も環境破壊によって引き起こされた地球の防御反応の一つなんでしょうか？

気象談話室の係りになってほぼ1年が経ちました。原稿の依頼や査読は「教育と普及委員会」が担当しておりますが、皆さんからの投稿も勿論大歓迎いたします。1月号の投稿案内を御覧下さい。コーヒーでも飲みながら楽しく読めるような記事をお待ちしています。

(大泉三津夫)